

国語科学習指導案

日時 平成25年5月24日(金) 第1校時

対象 3年3組(男子20名 女子19名 計39名)

指導者 教諭 山 宗 功

1 単元(教材)名 比較して読もう (「俳句の世界」三省堂)

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代は情報化社会であり、私たちの身の周りにはテレビ、インターネット、新聞、書籍等の様々な情報媒体による情報があふれている。また、日常生活においてはその量の多さや情報の即時性等から、情報の大まかな理解にとどまり、その真偽や適不適にこだわりながら読むことが少なくなってきた。さらに、自分の思いを表現する際も、感情を視覚的に捉えやすい絵文字やイラスト等を使って表現することが好まれる状況が多く見られる。

このような状況は中学生も例外ではなく、相手の思いや気持ちを汲んで言葉の意味を理解したり、言葉を選んで表現したりすることができない生徒が増えてきている。また、それが原因で誤解を招き、トラブルに発展する場面もみられる。

そこで、俳句に用いられている語句の一つ一つにこだわってその意味や効果を吟味したり、表現の工夫を捉えたりすることによって、作者が俳句に詠んだ情景や思いを豊かに想像しながら読み味わわせたいと考えて本単元を設定した。

また、教材として取り上げる俳句は、作者が心を揺り動かされた情景や出来事、その思い等を言葉を選んだり、表現を工夫したりしながら作ったものであり、それが十七文字の中に凝縮されているため、情景や作者の思いを想像豊かに捉えさせるのに有効である。

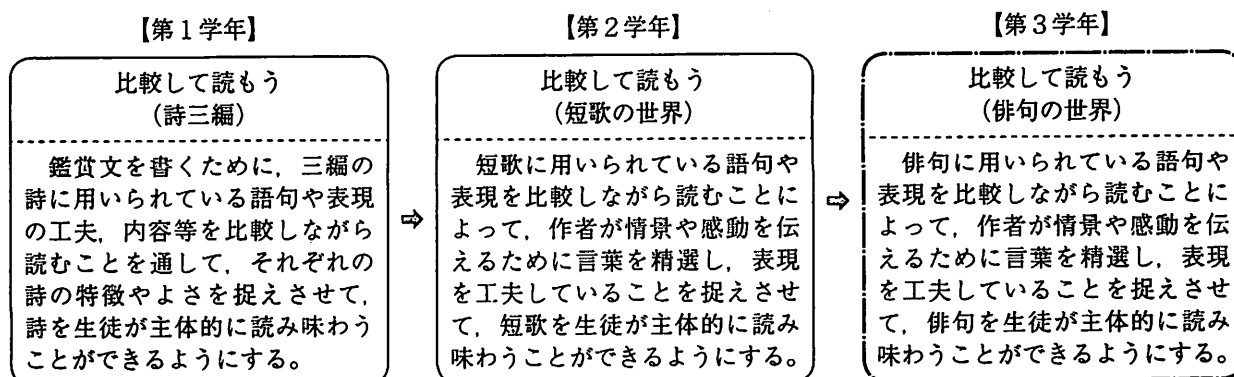
ここでは、俳句に用いられている語句や表現の工夫への理解を深める「語句や表現にこだわって読もう」という小単元と、想像豊かに俳句を読み味わわせるための「俳句を読み味わい鑑賞文を書こう」という小単元を設定した。

具体的には、まず、「語句や表現にこだわって読もう」の学習で複数の俳句を比較させることによってそれぞれの俳句の特徴やよさを捉えさせる。そして、その俳句がなぜ優れているのかを考えさせることを通して、語句の使い方や表現の工夫の仕方などについて理解させる。次に、「俳句を読み味わい鑑賞文を書こう」の学習で、教科書の俳句について、用いられている語句や表現にこだわりながら読み深めさせ、それを基にして鑑賞文を書かせる。

このように、語句や表現にこだわりながら俳句を読み深めて鑑賞文を書く活動を通して、生徒は語句や表現の工夫を捉え、書かれていることを正確に理解する力や表現を工夫して自分の思いを相手に伝える力を身に付けることができるものと考え。このような学習を行うことによって、生徒は創造的に思考する力と自発的な態度を育むことができると考える。

(2) 連関的意義

本単元は、ねらいと教材・学習活動の構成の系統において以下のような関連をもつ。



3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- (1) 学習に進んで取り組み、複数の俳句を積極的に比較してそれぞれの俳句の語句の用い方や表現の工夫を捉えることによって、俳句に描かれた情景や作者の思いを理解しようとしたり、進んで自分の思いを言葉で表現しようとしたりすることができる。
- (2) 複数の俳句を、語句や表現技法等の効果的な使い方を捉えながら読み、思いや情景を伝える表現の仕方について理解を深めるとともに、俳句の語句や表現の仕方に着目しながら想像豊かに捉えることができる。
- (3) 自分が選んだ俳句について読み深めたことを基に、相手にその俳句のよさが伝わるように鑑賞文を書くことができる。

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① 俳句を進んで分析し、内容を理解しようとしている。 ② 俳句に用いられている語句や表現の工夫等の効果について理解を深めようとしている。 ③ 俳句に用いられている語句や表現に着目しながら想像豊かに俳句を読み味わおうとしている。 ④ 選んだ俳句のよさが伝わるように記述を工夫して鑑賞文を書こうとしている。	
書く能力	⑤ 選んだ俳句に詠まれた情景や作者の思い等を読み取り、それを基にして、構成を工夫して鑑賞文を書いている。	ア 課題設定や取材、構成
読む能力	⑥ 俳句に用いられている語句や表現にこだわりながら読むことを通して、情景や出来事、作者の心情を表現するための語句の用い方や表現の工夫の仕方を理解している。 ⑦ 俳句に用いられている語句や表現の工夫に着目することによって、想像豊かに情景や作者の心情を捉え、俳句を読み味わっている。	ア 語句の意味の理解 エ 自分の考えの形成

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

本学級では、読むことの学習において次のような実態が見られる。

- ・ ほとんどの生徒が進んで音読や黙読を行い、書かれていることを理解しようとしている。
- ・ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味の違いについて理解しているが、表現された一つ一つの語句や表現の工夫にこだわりながら、情景を想像したり、作者の思いに迫ったりするまでには至っていない生徒が多い。
- ・ 作者が自分の思いを読み手に効果的に伝えるために、語句や表現を工夫していることを理解することはできるが、自らその工夫や作者の思いを捉えようとする態度にまで高まっている生徒は少ない。

このような実態から、指導に当たっては、語句や表現の工夫について分析したり吟味したりさせながら読ませたい。そのために、比較する活動を通して、作者がどのような思いでその言葉を選んで表現したのか、またどのような表現技法を使って情景を伝えようとしているかといった作者の表現の工夫やその効果を、生徒が自ら進んで捉えることができるようにしたい。

イ 本校の研究内容との関連から

① 比較における学習目標や学習課題の工夫

本校国語科では、学習目標や学習課題は、生徒に一単元または一単位時間で行う活動を明確に予想させ、理解させるものが望ましいと考えている。そこで、本時の学習目標を、「月の美しさが最もよく伝わってくる俳句を選ぼう。」とし、生徒が「複数の俳句の中から月の美しさが最も伝わってくると思う俳句を選ぶための活動を行う。」という学習の見通しをもつことができるようにした。

このような学習目標を設定することは、生徒の主体的な学習を促すとともに、より多様な考えを生み出させることができるものとする。

② 「比較」における教材の工夫

本単元では、俳句の学習を行うにあたり、俳句の語句や表現に着目して俳句の情景や作者の思いを捉えさせるために、「語句や表現にこだわって読もう」の学習において、四句の俳句を比較させることにした。本単元で選んだ俳句は以下の四句である。

A	望の月 昇りて 拍手 総立ちに	森本 恭夫
B	望の月 一片の雲 寄せつけず	藏本 博美
C	刻々と色の変わりて 望の月	能口 和子
D	群青の大空 わたる 望の月	柿沼 盟子

これらは、題材が共通であるとともに、詠まれている情景を想像しやすく、生徒がこれまでに身に付けた「ことばの力」を駆使して、用いられている語句や表現技法などを分析したり、吟味したりすることが容易にできるものであると考える。

これらの教材を用いて、月の美しさが最もよく伝わってくる俳句はどれかという視点で俳句に用いられている語句や表現を比較させることによって、その特徴やよさを際立たせることができ、詠まれている情景や作者の思いを実感させることができる。また、グループや全体での話し合いを通して、考えを練り上げさせる過程において、俳句は作者が情景や自分の感動を読み手に効果的に伝えるために語句を選んだり、表現を工夫したりしているものであることを理解させることができると考える。

このような学習を通して身につけた語句や表現にこだわりながら読む力を生かして、教科書に掲載されている俳句を、語句や表現を分析したり吟味したりしながら読み深めていくことができるようにする。さらに、教科書の俳句の中から自分が心動かされた俳句を選ばせ、その俳句の内容や魅力、自分の感想等を鑑賞文としてまとめさせる。そうすることによって、生徒は「ことばの力」を実際に活用できることを実感するものとする。

③ 「比較」における思考の広がりや深まりを重視した指導の工夫

生徒の思考の広がりや深まりを促すために、五感のどの感覚を使って捉えているか、どのような表現技法が用いられているか、どのような情景が詠まれているのかといった明確な観点によって俳句を分析した上で、複数の俳句の中から月の美しさが最も伝わってくる俳句はどれかを判断させる。その過程においては、語句や表現が情景や作者の心情を効果的に表しているかどうかを吟味しながら読むため、自ずと「比較」によって俳句が読み深められる。そのことによって、生徒は、作者が俳句をつくる際に、語句の一つ一つにこだわっていることや表現技法を効果的に用いていることに気づき、そのために俳句に詠まれた情景や作者の心情が実感を伴って自分の胸に迫ってくるのだということを理解することができる。

また、比較して選択する過程で、その理由を明確にさせることによって、生徒は自ずと俳句の語句や表現の工夫にこだわる。さらにその理由を基にして、話し合いを行って意見をまとめていく中で討論が生まれる。生徒同士が互いに自分の考えを出し合い、よりよいものに練り上げながら読み深める。このように、生徒は身に付けた「ことばの力」を駆使して、書かれたものを読んだり、自分の思いを表現したりする。このような学習を繰り返し行うことによって生徒の思考が広がったり深まったりするようになり、「創造的に思考する力」が高まるものとする。

(2) 単元の指導計画 (全9時間)

		過程	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	評価
比較して読む	語句や表現にこだわって読もう	導入	1 四句の俳句を、これまで身に付けた「ことばの力」を駆使して分析する。	1	・ 四句の俳句を分析することによって、優れた俳句は言葉が精選されていたり、表現技法が効果的に使われたりしていることを捉えさせる。	評価規準 ①②⑥ 観察 ワークシート
		展開	2 四句の俳句を比較して、月の美しさが最もよく伝わってくる俳句を選ぶ。	1 本時 (2/9)	・ 四句の俳句を情景、題材、表現技法等について比較することを通して、語句や表現の工夫について深く考えさせ、今後の活動につなげさせる。	評価規準 ②⑥ 観察 ワークシート
		終末	3 俳句の読み深め方をまとめる。 4 俳句の鑑賞文を書くための学習活動の流れをつかむ。	1	・ 俳句を想像豊かに読むためには、語句や表現の工夫を吟味することが重要であることを理解させる。 ・ 次の時間からの学習活動の見通しをもたせることによって、自発的に取り組もうとする意欲を高めさせる。	
比較して読む	俳句を読み味わい鑑賞文を書こう	導入	1 鑑賞文を書くための計画を立てる。 2 教科書の俳句を音読し、俳句のリズムをつかむ。	1	・ 鑑賞文のモデルを提示し、どのような観点で俳句を分析していけばよいのかを考えさせる。	評価規準 ① 観察
		展開	3 教科書の俳句を語句や表現に着目して読み味わう。 4 どの俳句の鑑賞文を書くのかを、理由を明確にして選ぶ。 5 鑑賞文の書き方を確認して、下書きを書く。 6 鑑賞文を推敲する。 7 清書する。	4	・ 教科書の俳句について、語句や表現の工夫にこだわりながら俳句に詠まれている情景や作者の思いを捉えさせる。 ・ 俳句を読み深めて分かったことを基に、選んだ俳句の魅力が伝わる鑑賞文を書くための俳句を選ばせる。 ・ 俳句の魅力が伝わるように構成を工夫しながら鑑賞文を書かせる。 ・ 下書きを交換し、相手に伝わりやすいかという観点で評価させ、指摘されたことを基に鑑賞文を推敲し、清書させる。	評価規準 ③④⑤⑦ 観察 ワークシート
		終末	8 鑑賞文を互いに発表し、感想を話し合う。	1	・ 完成した鑑賞文を発表させることを通して、わかったことやできるようになったことを実感させる。	

5 本時の指導（2/9）

(1) 指導目標

四句の俳句を、比較して読む活動を通して、情景や作者の思いをより豊かに、より深く読み取るためには、俳句に用いられている語句の一つ一つや表現の工夫に着目しながら読み、それらが句全体にどのような効果を与えているか考えるとよいことを理解することができるようにする。

具体的には、主として評価規準⑥に即して、次の「読むこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	四句の俳句を比較して、月の美しさが最もよく伝わってくると思う俳句を選ぶ活動を通して、それぞれの俳句の語句や表現の工夫を捉えとともに、その効果について考えて発表している。さらに、同じ月の美しさを表現するのに、多様な語句や表現の方法があることを理解し、それらを比較することによって、用いられる語句や表現技法等によって、読み手に異なる印象を与えることを捉えている。
おおむね達成されている	四句の俳句を比較して、月の美しさが最もよく伝わってくると思う俳句を選ぶ活動を通して、それぞれの俳句の語句や表現の工夫を捉えとともに、その効果について考えて発表している。
達成していない生徒への手立て	俳句に用いられている語句の意味を確認させ、それを手掛かりとして、俳句に詠まれている情景を自分なりにイメージさせる。

(2) 目標行動（G）

俳句を比較しながら読む活動を通して分かったことを、例えば次のようにまとめることができる。

俳句は、作者が心を動かされた情景やその思いを表現するために語句を選び、表現を工夫しているので、俳句をより豊かに読み取るためにはその俳句に用いられている語句や表現技法が句全体にどのような効果を与えているかを捉えながら読めばよいことが分かった。

(3) 下位目標行動

- ① 俳句を読むときは、作者の思いを捉えるために語句や表現の工夫にこだわって読むとよいということを理解し、発表することができる。
- ② 俳句とは、作者が自分の思いを伝えるために語句を精選し、表現を何度も練り上げるなどの工夫をして表現したものということを発表することができる。
- ③ グループで話し合ったことを基に、月の美しさが最もよく伝わってくると思う俳句はどれかについて、例えば次のように発表し、全体で話し合うことができる。

- Aの俳句だと思う。なぜなら、「総立ち」という語句で、たくさんの人が月が出るのを待ち構えていたことが分かるし、たくさんの人が月が昇ったことに感動して拍手をするぐらいの見事な月だからだ。
- Bの俳句だと思う。なぜなら、「一片の雲寄せつけず」という擬人法で、月自体が自分の姿を遮るものを寄せつけずに、凜として堂々と光り輝く姿が想像できるからだ。
- Cの俳句だと思う。なぜなら、「体言止め」で月が強調されているし、色の変化が分かるぐらい、長い時間、月を眺めており、それだけ注目していたことが分かるからだ。また、月そのものの色について説明しているのはこの句だけであるからだ。
- Dの俳句だと思う。なぜなら、「体言止め」で月が強調されているし、光り輝く月の色と群青色の夜空の対比が鮮やかであるからだ。また「擬人法」によって、月の動きが表現されているが、その月の動きを長時間目で追っていることも分かるからだ。

- ④ グループ内で話し合った結果を基に、自分たちの選んだ俳句が月の美しさを最もよく伝えられている理由を、他の班に納得してもらえるようにまとめることができる。
- ⑤ グループ内で、他の俳句を選ばなかった理由について、根拠を明確にして話し合うことができる。
- ⑥ 同じ俳句を選んだ者同士でグループをつくり、その俳句から月の美しさが最もよく伝わってくる理由を根拠を明確にしてまとめることができる。
- ⑦ 四句の俳句を分析した結果を基に、自分はどの俳句から月の美しさが最もよく伝わってくると思うか、根拠を明確にしてまとめることができる。
- ⑧ R 本時は、前時の四句の俳句の分析を基に語句や表現にこだわって比較することによって月の美しさが最もよく伝わってくる俳句を選ぶ学習であることを理解できる。
- ⑨ R 本時の学習目標を「月の美しさが最もよく伝わってくる俳句を選ぼう。」であると確認することができる。
- ⑩ R 四句の俳句を音読することができる。

(4) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点	評 価 活 動
	スタート		
5'	四句の俳句を音読し、学習目標を確認する。 1	<導 入> - 四句の俳句を情景を想像しながら大きな声で読ませる。 - 本時は、語句や表現にこだわって分析した前時の学習を基に、月の美しさが最もよく伝わってくると思う俳句を選ぶ学習であることを理解させる。 <学習目標> 月の美しさが最もよく伝わってくる俳句を選ぼう。	
	(10R, 9R, 8R)		
5'	月の美しさが最もよく伝わってくる俳句を選び、選んだ理由をまとめる。 2	<展 開> - 四句の俳句を分析した結果を基に、月の美しさが最もよく伝わってくると思う俳句について、その理由を根拠を明確にしてまとめさせる。 <達成していない生徒への手立て> - 俳句に用いられている語句の意味を確認させ、それを手掛かりとして、俳句に詠まれている情景を自分なりにイメージさせる。	○ 月の美しさが最もよく伝わってくる俳句を選び、その理由を根拠を明確にしてまとめることができたか。 (観察・ワークシート)
	(7)		
10'	グループ内で、自分たちが選んだ俳句から月の美しさが最もよく伝わってくると思う理由についてまとめる。 3	<達成している生徒への手立て> 自分が選ばなかった俳句についてどうして選ばなかったのかを根拠を明確にしてまとめさせる。	
	(6, 5, 4)	- 同じ俳句を選んだ者同士でグループをつくり、自分たちが選んだ俳句について月の美しさが最もよく伝わってくる理由についてまとめる。 - 他のグループに納得してもらえるように、残り三句を選ばなかった理由も考えさせる。 - 他のグループの人に説得力をもった説明ができるようにするために、できるだけ多くの根拠をあげさせる。	○ グループでの話し合いを通して、月の美しさが最もよく伝わってくる根拠を明確にすることができたか。 (観察・発表)
20'	グループで話し合ったことを基に、俳句に表現されている月の美しさについて全体で話し合う。 4	自分たちと異なる俳句を選んだり、異なる捉え方をしたりしているグループとの話し合いによる考え方の比較を通して、自分の考えを深めさせる。	○ 全体での話し合いを通して自分の考えを広げ、深めることができたか。 (観察・発表)
	(3)		
10'	全体での話し合いを基に、俳句とはどのようなものであるかをまとめる。 5	<終 末> - 俳句は限られた文字数の中で作者が心を動かされた情景や感動を効果的に表現するために、言葉を精選したり、表現技法を使ったりして工夫したものであるのを、その効果を考えながら読み取るとよいことを理解させる。 - 複数の俳句を語句や表現を比較しながら読むことによって、特徴やよさがより明確になることを理解させる。	○ 俳句の読み深め方について理解することができたか。 (観察・発表)
	(2, 1)		
	(G)		
	ゴール		